

授業科目	医療薬学	2 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	福土 将秀 (附属病院薬剤部) e-mail : fukudom@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	齋藤重幸 (保健医療学研究棟 E203 号) e-mail : ssaitoh@sapmed.ac.jp
担当教員			
概要	薬物療法は疾患や症状を有する人々に最も多く用いられる治療法である。薬物療法にかかわる看護の役割は、患者が医薬品を安全に使用することができるように援助することである。 本科目は、医薬品の体内動態や薬物療法に関する基礎的知識に加えて、臨床現場で知っておくべき医薬品情報や医薬品の安全管理と適正使用法、チーム医療など看護実践に求められる知識・技術を教授する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人にとっての薬物、医療にとっての薬物とは何かを理解する。</li> <li>2. 薬物や薬理作用に関する基礎的知識を理解する。</li> <li>3. 人の心身に作用する種々の薬物に関する基礎的知識を理解する。</li> <li>4. 薬物の適用にかかわる実践的知識を理解する。</li> <li>5. 医療従事者の役割を理解するとともに、看護師と薬剤師の連携のあり方を考える。</li> </ol>		
関連科目	なし		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	100%	授業時間の 3 分の 2 以上出席している学生に試験の受験資格を与える。筆記試験で 6 割以上の点数の学生に所定単位を与える。
教科書	①吉岡充弘 他 [2018 年・2,300 円] 「系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学」 医学書院		
参考書	①中原保裕 [2017 年・3,672 円] 「処方わかる医療薬理学 2016-2017」 学研		
履修上の留意点	予習・復習を怠らないこと。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	【薬理学総論 1】 薬理学の基礎知識 ・新薬の開発とプラセボ、薬の作用(薬力学)と薬物動態学	教科書を読む	講義	福土
2	【薬理学総論 2】 薬物相互作用、製剤、医薬品の添付文書、処方せん	教科書を読む	〃	〃
3	【薬理学総論 3】 薬と法律、臨床研究と倫理指針、遺伝子多型情報	教科書を読む	〃	〃
4	1) 抗感染症薬、消毒薬	教科書を読む	〃	〃
5	2) 抗がん薬、分子標的治療薬	教科書を読む	〃	〃
6	3) 免疫治療薬・抗アレルギー薬・抗炎症薬	教科書を読む	〃	〃
7	4) 末梢での神経活動に作用する薬物	教科書を読む	〃	〃
8	5) 中枢神経系に作用する薬物	教科書を読む	〃	〃

9	6) 循環器系に作用する薬物	教科書を読む	〃	〃
10	7) 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	教科書を読む	〃	〃
11	8) 物質代謝に作用する薬物	教科書を読む	〃	〃
12	9) 皮膚科用薬・眼科用薬、救急の際に使用される薬物	教科書を読む	〃	〃
13	10) 漢方薬、輸液製剤・輸血剤、看護業務に必要な薬の知識	教科書を読む	〃	〃
14	1) 附属病院薬剤部・治験センターの役割と院内における 医薬品の供給管理・医療安全対策 2) 医療現場における薬剤師の役割 3) 看護師と薬剤師の連携のあり方、チーム医療	レポートを書く	見学	〃
15	国家試験問題対策	問題を解く	演習	〃